

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年4月30日

事業所名児童発達支援・放課後等デイサービス EMIRIA

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		大集団にならないように部屋を分ける場合がある。	
	2 職員の配置数は適切である	4		基本人員は遵守している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		全ての部屋に対してバリアフリーである。わかりやすく部屋の番号、絵などを活用している。	番号でわかるお子さまや絵などでわかるように口頭でも知らせています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		午前、午後と毎回消毒を行い綺麗にしている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	1	ミーティング、リフレクション会議により振り返りや業務改善に努めている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	1			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		1	現時点では第三者評価はない。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3			
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		アセスメント時に保護者様のお話や、お子さまの様子などを実際に拝見して課題の整理を行っている。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	2	保護者様のお話や相談員からの情報以外なく発達についての意見書などが無い。	なるべく相談員にお願いして情報の共有等を行ない偏ったものにならないようにしている。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	2	1		アセスメントや保護者のニーズに対してのお子さまにどのような支援が必要なのかを把握できるように具体的に支援内容を設定している。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	3		連絡帳に記載している。	支援項目を提示して支援を行ったかを連絡にてお知らせしている。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	4			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		活動が偏らないように工夫している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	3			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	1		勤務時間差や送迎業務等により支援開始前の打ち合わせが必ずできるということはない。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	1	ミーティング時に共有できる時間を設けるようにしている。	
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		支援終了後に記録をとっている。共有できるようにしている。		

20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	必ず目標の評価を行っている。
----	---------------------------------------	---	----------------

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2		市の保健師や子育て関係者にお話を聞きに行ったりしている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在、医療的ケアの必要なお子さまのご利用はありません。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在、医療的ケアの必要なお子さまのご利用はありません。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		2	現時点では交流の機会はない。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		2		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3			送迎時になるべくお伝えできようにはしている
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		1	家庭連携を通して保護者さまのお困り事に寄り添う支援ができるようにしている。	相談員と連携して家庭の事や保護者さまの様子を連携して支援を行なうようにはしている
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			契約時に説明はしているがわからないときは口頭で知らせている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	2	1	取り組んでほしい支援については最初にお聞きしています。	計画書を作成したものは職員の意見等を参考に本案を保護者さまにお見せしながら説明をして同意を得ています。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			保護者さまからのアプローチがあった場合はそれに応じて支援を行なっている専門的な助言等も行なっている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	1		現時点ではないが今後保護者さまのご意向に配慮しながら検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		1		現時点では地域住民をご招待するタイミングがなかった。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	1	1		各種マニュアルは整備しています。訓練も実施しております。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2			定期的に訓練は行っています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	2	1		契約時に確認はしている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	1		医師の意見書はもらっていないが保護者のアレルギー申告書で対応している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	1	初回アセスメントにて聞き取りアレルギー用紙に記入している。	事業所内で確認した後に確認印をもらっている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3			研修は行なっている。新規入職者にも対応している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2			身体拘束のない支援を目標にしています。